

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 3 日現在

機関番号：32601

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520442

研究課題名（和文）

コーパスに基づくフランス語他動構文の文法化研究―「変化」を表わす動詞の考察

研究課題名（英文）A Research on grammaticalization of transitive constructions in French based on corpus : the verbs expressing "change"

研究代表者

尾形 こづえ (OGATA KOZUE)

青山学院大学・文学部・教授

研究者番号：90194422

研究成果の概要（和文）：

本研究では意味概念「変化」を表す他動詞のうち、特に頻度の高い changer の他動構文をコーパスの検証に基づいて検討した。その結果、changer の N_0 -changer-de- N_1 構文における間接目的は限定を受け容れない点で他の動詞の間接目的とは区別されること、また、統辞・意味の観点から N_0 -changer-de- N_1 構文は均質でなく、 N_1 のタイプにより、間接目的として分析される場合と状況補語と捉えられる場合が認められることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：

We discuss the syntactic properties of N_0 V de N_1 of *changer*, in opposition to N_0 V N_1 , from a corpus analysis. In N_0 V N_1 , the referent of N_1 , direct object, changes, whether modified or replaced. In N_0 -V- de N_1 , on the other hand, N_1 , which does not admit a determiner, does not refer to a specific entity and indicates a category. Thus the referent of N_1 is not affected by the change. The indirect object de- N_1 of *changer* is distinguished from de- N_1 of other verbs which admits determiners.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2011年度	400,000	120,000	520,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：コーパス, 間接目的, 他動構文, 直接目的, 統辞機能, 状況補語

文法化, 統辞構造

1. 研究開始当初の背景

フランス語において構文の中心をなす動詞に注目し、現代フランス語基本動詞の統辞構造と意味構造の関係を、文法化の観点から大規模コーパスの検証に基づいて詳細に分

析・記述することが研究全体の目指すところである。このような構想に基づいて、現代フランス語基本動詞のうち、これまで特に言語伝達に関わる三項動詞 (permettre 等) に注目し、これらの動詞が人間から人間への言語伝達を表している場合と非人間主語と事行

の間の論理的な関係を表している場合の統辞構造をコーパスの検討に基いて比較し、その違いを文法化の観点から考察した。その結果、permettreの構文には少なくとも三つの異なる文法化の段階が区別されることを明らかにした。本研究では引き続き文法化連鎖の観点から研究を推進し、他動構文の基本的意味分野の一つである「対象の変化」を表す動詞に研究対象を限定する。

2. 研究の目的

本研究では特に意味概念「変化」を表す動詞グループに注目し、そのうち最も頻度の高い動詞changerについて直接・間接他動構文の統辞・意味特性を考察する。特に以下の点を明らかにすることを目的とする。

(1) changerの直接他動構文 $N_0 V N_1$ と間接他動構文 $N_0 V de N_1$ はどう対立しているのか。

(2) changerの間接他動構文 $N_0 V de N_1$ における $de N_1$ は他の動詞(例えば parler, traiter, servir)の間接他動構文における $de N_1$ と機能の観点から同様の間接補語と捉えられるか。

(3) 「間接目的」と「状況補語」には明確な境界が存在しているか、段階として捉えるべきか検討する。

(4) changerの間接他動構文間に見られる違いは文法化連鎖の観点からどのように捉えられるか。

3. 研究の方法

(1) 大規模コーパスを用いて動詞changerの資料母体を作成する。changerの全構文の使用頻度を明らかにし、比較する。

(2) changerに関する先行研究、および主要な文法書、辞書の記述、分析を参照し、これまでchangerがどのように捉えられてきたかを検証する。出発点としてMaurice GrossとEric Laporteの研究グループの「語彙・文法モデル」に基づく網羅的なフランス語動詞構文研究を参照する。

(3) changerの構文のうち、特に直接他動構文 $N_0 V N_1$ と間接他動構文 $N_0 V de N_1$ に注目して、その対立を統辞・意味の観点から詳細に検証する。

(4) changerの間接他動構文の特性を $N_0 V de$

N_1 構文をとる他の動詞の構文に見られる特性と比較検討する。

(5) 間接目的 $de N$ における de の働きを前置詞 de の働き全体の中で捉え直す。

(6) changerの構文間の対立を文法化連鎖の観点から考察し、文法化の傾向の有無を明らかにする。

4. 研究成果

(1) 現代フランス語で「変化」を表す他動詞の中でchangerは最も頻度が高く(全動詞中96番目, cf. Baudot J., 1992. *Fréquences d'utilisation des mots en français écrit contemporain*. Montréal), remplacer, déplacer, modifier, transformer, échanger等を引き離している。パリ東マルヌ・ラ・ヴァレ大学言語学科の言語情報工学研究所Institut Gaspar Monge (IGM)が開発した言語自動分析システムUnitexを利用して日刊紙ル・モンド紙を調査したところ、同紙一年分(1994)に見られる動詞changerと名詞changeの使用例は4509である。このうち動詞の1000例(日付の早いもの)を基本資料として構文を調査した。各構文を主語 N_0 のタイプ(+h = 人間, -h = 非人間)により分類すると頻度は以下のものである。出発点としたM. Grossの「語彙・文法モデル」による動詞構文分類のクラスを括弧内に記している。

$N_0 V$ (31 R) [N_0+h :70, N_0-h : 304]
 $N_0 V en N_1$ [$N_0+h V en N_1$: 0, N_0-h : 1]
 $N_0 V N_1$ (32R1) [N_0+h : 165, N_0-h : 86]
 $N_1 est V_e$: 16
 $N_0 V (N_1)$: 8
 $N_0 V N_1 à N_2-h(y)$ [N_0+h : 0, N_0-h : 2]
 $N_0 V N_1 (pour + contre) N_2$ (38R) [N_0+h : 1, N_0-h : 0]
 $N_0 V N_1 à N_2$ [N_0+h : 8, N_0-h : 0]
 $N_0 V N_1 de N_2$ [N_0+h : 1, N_0-h : 0]
 $N_0 V N_1 en N_2$ (38R) [N_0+h : 5, N_0-h : 3]
 $N_0 V de N_1$ (35 R) [N_0+h : 230, N_0-h : 48]
 $N_0 V de N_1 à N_2$ [N_0+h : 1, N_0-h : 0]
 $N_0 se V$ (31H) [N_0+h : 3, N_0-h : 0]
 $N_0 se V en N_2$ [N_0+h : 2, N_0-h : 8]
 $N_0 se V de N_1$ [N_0+h : 1]

資料として更に文学作品が中心のデータ・ベースFrantextを検討した。

(2) 直接他動構文 $N_0 V N_1$ (251例)と間接他動構文 $N_0 V de N_1$ (278例)を頻度の観点から比較すると構文はほぼ同様であり、構文全体の中で自動詞

構文(374例)に次いで頻度が高い。意味の観点からは直接他動構文ではremplacerで言い換えられる「交換」(N_0 change la nappe.)と、modifierで言い換えられる「同一物の部分的変化」(N_0 change le programme.)の二つの可能性が認められるが、いずれの場合も、変化するのは N_1 の指示対象であり、主語 N_0 の指示対象は変化しない。

一方、間接他動構文では目的補語 N_1 は限定辞を受け容れず、常に無冠詞である。この統辞特性はchangerの先行研究(例えば、Mel'cuk, I., 1992. "Changer et changement en français contemporain (étude sémantico-lexicographique)". *Bulletin de la Société Linguistique de Paris*. 87/1 : 161-223, Pottier, B., 1978. "Organisation sémantique de l'article de dictionnaire". *Bulletin de la Société de Linguistique de Paris*. 73/1 : 339-366.),および、主要な辞書(例えば *Le Grand Dictionnaire Robert de la langue française*)の記述において注目されていないことが多いが、この点は重要である。 N_0 changer de N_1 における N_1 は特定の指示対象を持たず、カテゴリーの指示に留まっており、changerの表す「変化」の影響を受けない。 N_1 はchangerの表している事行に参加するものとして機能するだけである。

資料中の N_1 には以下の三つのタイプが認められる。

①主語の特性、属性:

Le travail change de statut.

②主語の使用しているもの、または、所有しているもの:

Elle change de banque.

③主語のいる場所:

Léa change de métro à Châtelet.

コーパス中の頻度は①が最も高く、これに②、③が続くが、①の数は他のタイプを引き離している。

J. Picoche (1980. "Les degrés de l'altérité et le signifié de puissance de quelques verbes exprimant l'idée de "(faire) devenir autre" ". *Travaux de linguistique et de littérature*. XVIII, 1. 165-172.)はこの構文の N_1 はすべて主語の一部として特徴づけられるとしているが、①について当てはまるとしても、具体物を表す②、③についてはこのような分析は当てはまらない。 N_1 が①の場合と②、③の場合に分けて考察する必要があり、この観点から間接他動

構文は以下の a., b. 二つのタイプに分けられる。

a. タイプ

N_1 が②の主語 N_0 の使用しているもの、または、所有しているものを表している場合(On change de bobine.), 主語は動作主=人間に限定され、また、③の主語の居る場所を表している場合(Il a changé de département.)は動作主主語と結びつきやすい。このタイプではchangerは間接他動詞として機能し、 N_0 V de N_1 は完了時制において「変化」の遂行のみを表す。 a. タイプの間接他動構文としての特徴は以下のような非人称受動構文が可能であることにも表れている。

Il a été changé de programme de travail.
(Cf. *On a changé de programme de travail.*)

Il a été changé de train à cette station depuis le début du transport ferroviaire.
(Cf. *On a changé de train à cette station depuis le début du transport ferroviaire.*)

このような可能性はこのような N_1 タイプの N_0 changer de N_1 構文を同様の可能性が認められるparler等の間接他動構文 N_0 V de N_1 に近づけるものである。

Il a été parlé de la politique.

(Cf. *On a parlé de la politique.*)

b. タイプ

N_1 は主語 N_0 の属性を表し、changerの表す「変化」に動作主性は要求されていないため、主語は人間に限られない。changerは自動詞として機能し、de N_1 は状況補語と分析される。changerの表す「変化」によって主語の属性の一つが換えられるため、「変化」は主語に影響を及ぼす。

この点は b. タイプの構文が以下のような主語の変化の内容を問う質問の答えとなることにも表れている。

En quoi Pierre a-t-il changé ?

—*Pierre a changé de coiffure.*

En quoi les feuilles changent-t-elles ?

— *Les feuilles changent de couleur.*

主語が人間の場合は、a. タイプと b. タイプ両方の可能性が存在しているため、コーパス中にはどちらか一方に分析することの困難な例が認められるが、明らかに b. タイプの

方が頻度が高い。

(2) *changer* の間接他動構文 $N_0 V de N_1$ における *de N_1* は限定辞を受け容れない点で他の動詞の間接他動構文、例えば *parler*, *traiter*, *servir* における *de N_1* とは異なっている。この違いは $N_0 \text{ changer } de N_1$ が疑問文 *De quoi changer N_0 ?* の答えとならない点にも表れている。

**De quoi Pierre a-t-il changé ?*

— *Pierre a changé de (avis + coiffure + secrétaire + attitude).*

De quoi Pierre a-t-il parlé ?

— *Pierre a parlé de son nouveau livre.*

N_1 のこの限定辞を受け容れないという統辞特性は現代フランス語の間接他動構文 $N_0 V de N_1$ の中でも特異であり、頻度の高い動詞の中でこの特性が認められるのは我々の調査では *changer* に限られている。

(3) *changer* の間接他動構文における a. タイプ と b. タイプの対立は文法化連鎖の観点から見ると、主語が動作主＝人間に限定されている場合、また、動作主主語に結びつきやすい場合を含んでいる a. タイプに比べ、選択制限を失い、より「一般化」して、非人間主語も受け容れる b. タイプは文法化が進んでいると捉えることができる。b. タイプの頻度が a. タイプに比べ圧倒的に高いことも同様の方向を示している。

(4) 今後の展望

① 本研究で注目した *changer* の間接他動構文中の *de N_1* が限定辞を受け容れないという特徴は「間接目的」の定義にも関わる重要な特性である。頻度の高い動詞の中でこの特性が認められるのは我々の調査では *changer* に限られており、*changer* のこの特性は先行研究で重視されていない場合も多かったが、もっと注目されてよいと思われる。この限定辞を受け容れない $N_0 \text{ changer } de N_1$ 構文中の *de N_1* には明らかに動詞の項として分析される間接目的の特徴を持っている場合と動詞の項の中には入れられない状況補語としての機能に限定される場合が認められるが、この両方の分析の可能性が存在する人間主語の場合、どちらか一方に限定できないものも多く存在する。一つの語彙単位 *changer* の同形の構文 $N_0 \text{ changer } de N_1$ において間接目的と状況補語の境界は絶対的なものではなく、むしろ

段階として捉える方が言語事実に即していると考えられる。状況補語との対立において間接目的を特徴づけている特性の全体を明らかにするためには、今後もコーパスの詳細な分析に基づいて、間接目的と状況補語の境界領域の検証を続ける必要がある。

また、*changer* の構文内に見られる *de* の働きをフランス語における前置詞 *de* の働き全体の中で更に検討する必要がある。

② 本研究でも明らかになったように、広範なコーパスに基づいて有為な数の実際の使用例を観察し、考察を進めることにより、これまでの主としてフランス語話者としての直観に頼った研究で全く、またはほとんど記述されていない言語事実を発見することが多くある。今後もコーパスの分析に基づいて、これまで続けてきた動詞構文研究を先に進め、フランス語の統辞構造の解明に関わるとされる本質的問題を考察していく。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

① 尾形こづえ “A propos des compléments direct et indirect dans les constructions $N_0 V N_1$ et $N_0 V de N_1$: le cas du verbe *changer*”, 青山学院大学文学部『紀要』, 第53号, 1-22, 2012. (査読なし)

② 尾形こづえ “Perception visuelle vs perception non visuelle : le cas du verbe *voir*”, 青山学院大学文学部『紀要』, 第52号, 1-20, 2011. (査読なし)

[学会発表] (計2件)

① 尾形こづえ “La préposition *de* dans la construction $N_0 V de N_1$ du verbe *changer*”, 第31回国際語彙・文法コロキウム2012年9月19日～21日(於 Nove Hradý (チェコ共和国))

② 尾形こづえ “Les compléments direct et indirect en *de* : le cas du verbe *changer*” (於青山学院大学)「フランス語統辞・意味研究会(招聘講演者ルーヴェン・カトリック大学言語学科 B. Lamiroy 教授)」2012年1月29日

[図書] (計2件)

① OGATA Kozue (編集) “Autour des verbes :

constructions et interprétations”, John Benjamins Publishing Company, 2013年10月刊行予定, 全247ページ,
OGATA Kozue, “Le complément indirect en *de* : la construction $N_0 V de N_I$ du verbe *changer*” を分担.

② 東京外国語大学グループ “セメイオン”
(編) 『フランス語を捉える—フランス語学の諸問題 IV』, 三修社, 2013年3月,
尾形こづえ「文法化と *Sujet non restreint* 一動詞 *permettre* の場合—」, 93-108 を分担.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

尾形 こづえ (OGATA KOZUE)

研究者番号 : 90194422

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし